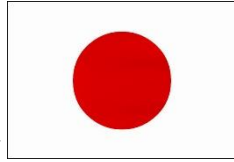




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
1st. Oct. 2018 No.2

日本は、台風の被害が甚大だったと聞きました。ナミビアの新聞にも取り上げられていました。名古屋は被害が少なく安心しました。さて、先日の体育大会はいかがでしたか。雨であまり練習ができなかったと聞きました。思うような結果が得られた人もいれば、そうでなかった人もいるとは思いますが、それぞれのステップにつながると信じています。

任地について(About my assignment place)

私は Omusati 州の Okahao というところにいます。首都から北に車で9時間ほどの場所です。街には、牛やヤギ、ロバなどが歩いています。北部は、首都に比べ発展していないところが多くあります。これは、ナミビアがドイツの植民地支配の際に、黒人を北部に追いやったため発展が遅れたためだといえます。また、外国人が珍しく、日本が中国の一部だと思っている人も多く、私も中国人と言われることが（家の近くで休むロバ）あります。「顔は似ているけど、文化や言葉が違う」などと説明しています。最近では、顔見知りになり、「Japan!」と言って、声を掛けてくれる人が増えてきました。



生活について(About my life)

ナミビア人の先生たちと一緒に共同生活をしています。近くの学校の校長先生と理科の先生です。家には、洗濯機はありません。ズボンや（大きなバケツで洗います）上着などを洗うのは大変です。



日本では当たり前のようにある便利な物のありがたみを感じています。お湯は出ないので、毎回湯を沸かして、1杯のバケツに湯をためて体を洗っています。停電や断水もたびたびありますが、その環境を楽しむようにしています。



アパルトヘイト政策について

ナミビアの学校について(About Namibian school)



(ナミビアの生徒たち)

ナミビアの学校は、少し早い時間からスタートします。私のいる州の学校では、1時間目が 8:00 から始まり40分の授業です。また、州によっては、7:30から始まる学校もあります。1～7時間目まであり、授業ごとの休み時間はありません。唯一の休み時間は3、4時間目の間の30分で、そこで簡単な食事をとっています。そして、13時半には下校します。

ナミビアはドイツの植民地支配後、南アフリカの支配下に置かれ 1990年に独立した比較的新しい国です。南アフリカの影響によりアパルトヘイト（1994年ごろまで法律で認められた人種差別）が行われました。黒人は人種差別をされ、カラードと言われる白人との混血の人も同様に、居住区などが分けられました。先日、実際にアパルトヘイト政策によって、ひどい仕打ちを受けた方から話を聴く機会があり、裸足で別の国まで逃げたということを知りました。また、当時人種によって分けられていた病院に行くと、貧しい黒人の方が多くおり、いまだに影響が残っていることを感じました。